



## トイレの歴史（平安時代）

平安時代のお姫様は何枚も重ねて着物を着る「十二単」をまとい  
自分の丈より長く髪を伸ばしていました。

お姫様がトイレをするときはお付きの人がうちかけをとり、  
袴を脱がせ、髪を帯に挟み、着物の裾を衣掛けにかけ、

お姫様のお尻の下に入って「樋箱」と呼ばれる

持ち運び式のトイレを差し込み、用をたしていました。

一方庶民は路上の隅に穴を掘り、しゃがんで用をたしている姿が  
絵巻物に残されています。